

M E S

沖縄市との兄弟都市提携50周年を迎えられたことを大変喜ばしく思います。

豊中市と沖縄市は1964年(昭和39年)、竹内義治豊中市助役が大山朝常コザ市長と懇談したことがきっかけとなり、1974年(昭和49年)の兄弟都市宣言につながります。遠く1,000km以上も離れた両市が、50年の長きにわたりスポーツや文化などさまざまな分野で交流を積み重ねてまいりましたことは、お互いを「きょうだい」のように思いやり、固い絆を結んでこられた両市民をはじめ、関係者の皆さまのご尽力のたまものであり、深く敬意を表します。

1995年(平成7年)には、阪神・淡路大震災が本市を襲い、大阪府内で最大となる被害を受けた際、沖縄市や沖縄市民の皆さまから心温まる義援金や支援物資をいただき、まさに「きょうだい」のように寄り添ってくださったことが、

豊中市民の心にいつまでも残っています。

今日に至る交流の歴史の主役は、やはり両市の市民の皆さまです。豊中を代表する催し「豊中まつり」では、1997年(平成9年)に「沖縄がやってくる」と題して島唄や琉球舞踊など沖縄の文化を紹介し、それが今の沖縄音舞台につながっています。豊中まつりで初めて沖縄の文化に触れたという方も多いのではないのでしょうか。

そして、これからの未来を担う若い世代へ交流のバトンをつなげ、友好の絆を次世代に受け継いでまいります。今年から豊中市の中学生が修学旅行で沖縄市を訪れています。若い世代が出会い、交流を重ねることで、新しい関係が生まれ、両市の友好の絆がより深まることと期待しています。

いちゃりばちよーでー、出会えば兄弟。これからも友好の絆をつないでまいります。

豊中市長
長内 繁樹

S A G E

豊中市と沖縄市が兄弟都市提携50周年という節目を迎えられたこと、大変うれしく思います。

この50周年の歴史を振り返ると、両市の交流は旧コザ市時代までさかのぼります。

交流のきっかけは、大切な存在を失った悲しみや喪失感に寄り添い思いやる気持ちから、豊中市戦没者の遺族へ霊石と仏桑華(ハイビスカス)を贈ったことに端を発し、沖縄市が誕生した1974年(昭和49年)には、「兄弟都市宣言」に調印しました。沖縄市はこの50年、平和への思いを胸に豊中市と共に歩んでまいりました。

これまで両市は、さまざまな分野で交流を深めており、最初は、本土の行政について学ぶため、職員を豊中市に派遣しました。これはいつしか「豊中学校」と呼ばれるようになり、延べ100人以上の職員が豊中市に伺い、学んだこの「豊中学校」が、今の沖縄市の礎となっていま

す。快く受け入れていただき、深く感謝申し上げます。

また、当初は、行政間での交流が中心でしたが、今では、少年少女合奏団の交流から始まり、スポーツや音楽を通じた交流など、市民同士の交流が盛んに行われるようになりました。

この兄弟関係が育まれて、50回目の節目の年を迎えられたことは、交流に携わってこられた数多くの両市民の皆さまの存在があってこそだと感じております。心より感謝申し上げます。

今回の記念誌刊行を契機にこれまでの歩みを振り返るとともに、交流事業をととして、兄弟の絆をより一層深め、次世代へつなげていきたいと考えております。

これからも「いちゃりばちよーでー」の精神を胸に、共に歩いていきましょう。次の50年に向けて、豊中市と沖縄市の交流関係がますます発展していくことを祈念いたします。

沖縄市長
桑江 朝千夫